

第1回ワークショップを 開催しました！

ふらっと訪れたマルシェで、今の自分にぴたっとしたものと出会ったら、その日1日があっという間気持ちになりませんか。

ほけんしつマルシェは、保健室の先生達がそれぞれ日々行っている工夫を持ち寄り、気軽に情報交換する「ゆるっ」とした会です。

第1回目は、現在話題になっている子ども若者ケアラー（ヤングケアラー）をテーマにしました。

第1回ワークショップは大津市@寺町ベースにて

寺町ベースは大津の古民家のレンタルスペースで、その日は1階で地元野菜、美味しいコーヒーやケーキ、ホットドッグ、そして様々なハンドメイドの品も販売されてました。大津のマルシェの一角を借りました。



会場には、立命館大学産業社会学部学生の皆さんに作成いただいた

【ヤングケアラーってこんなひと！】

のポスターも紹介！

このポスターは、大学生が高校生とコラボして作成されたそうです。



お昼はKWC（きょんさんの世界の
スパイスカレー）
滋賀県大津市京町にある
古民家のお店からテイクアウト
しました。

参加者は、養護教諭の皆さんと、ゲストにSSW 上原祐介さん、
滋賀県社会福祉協議会 細川貴代さん、
そしてオブザーバーとして毎日新聞のヤングケアラー取材班記者さんも参加されまし
た！（東京から参戦！）

ナビゲーターはとりあえずほけんしつのスタッフ、立命館守山中学校高等学校 養護教
諭 山村和恵。

まずは参加して頂いた養護教諭の皆さんの現状を紹介して頂きました。

「まおちゃんに聞いてみよう コーナー」では、立命館大学 産業社会学部 斎藤真緒教
授から最近のヤングケアラー事情、家族や地域のまるごと支援、保健室の役割などを話
して頂きました。

（デザート美味しいプリンの手が止まるくらい皆さん集中）

まだまだSSWが導入されていない現実、ヤングケアラーであろう生徒に対する生徒への
声掛けの難しさ、大半の養護教諭はクラブ顧問も任されていたり、社会と繋がりたい、
助けて欲しいと思っていても養護教諭自身がどこにSOSを出していいかわからない現
実も見えてきました。

そしてSSWの仕事内容や問題点、社会福祉と学校とのつながりの難しさも見えてきたと
ころで、「とりあえずほけんしつ」の意味、このネーミングに込められているメッセー
ジのひとつとなる

「相談しに行くのは難しい。もやもやだったりしんどい事を無理に話すのではなく、
とりあえずほけんしつに行ってみよう」という保健室の役割を共有しました。
盛況のままクローズ。

第2回も現在、企画中です！
参加して頂いた皆さん、本当にありがとうございました。